

2021年7月登録

奄美の世界自然遺産登録

2つの「世界自然遺産」を有する鹿児島県

奄美群島の奄美大島と徳之島は、アマミノクロウサギなどの絶滅危惧種を含む動植物の生息・生育地です。奄美群島の成り立ちを反映した独自の生物進化を背景とした、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性保全上重要な地域です。

この「生物多様性」が評価され、沖縄島北部、西表島とともに、2021年7月に世界自然遺産に登録されました。

これにより、鹿児島県は、屋久島と合わせて2つの世界自然遺産を有する国内で唯一の都道府県になりました。

世界自然遺産 屋久島

世界的にも稀な樹齢数千年のヤクスギや多くの固有種など多様な生物相を有し、植生の典型的な垂直分布が見られるなど、特異な生態系と優れた自然景観を有していることを評価され、1993年12月、我が国で初めて世界自然遺産に登録されました。

世界自然遺産 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

奄美大島 約71,200ha
うち、登録区域 11,640ha

徳之島 約24,800ha
うち、登録区域 2,515ha

そのほかの鹿児島の世界遺産

世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産

鹿児島市にある旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝は、幕末から明治期の重工業における急速な産業化の道程を証言する産業遺産群の構成資産であり、九州・山口を中心とする8県11市の23の資産で構成される世界文化遺産として、2015年7月に登録されました。

Ⓧ 尚古集成館(旧集成館機械工場)

奄美大島・徳之島に生息・生育する希少な生き物

奄美大島と徳之島の面積は、2島合わせても日本全体の0.26%程度しかありません。

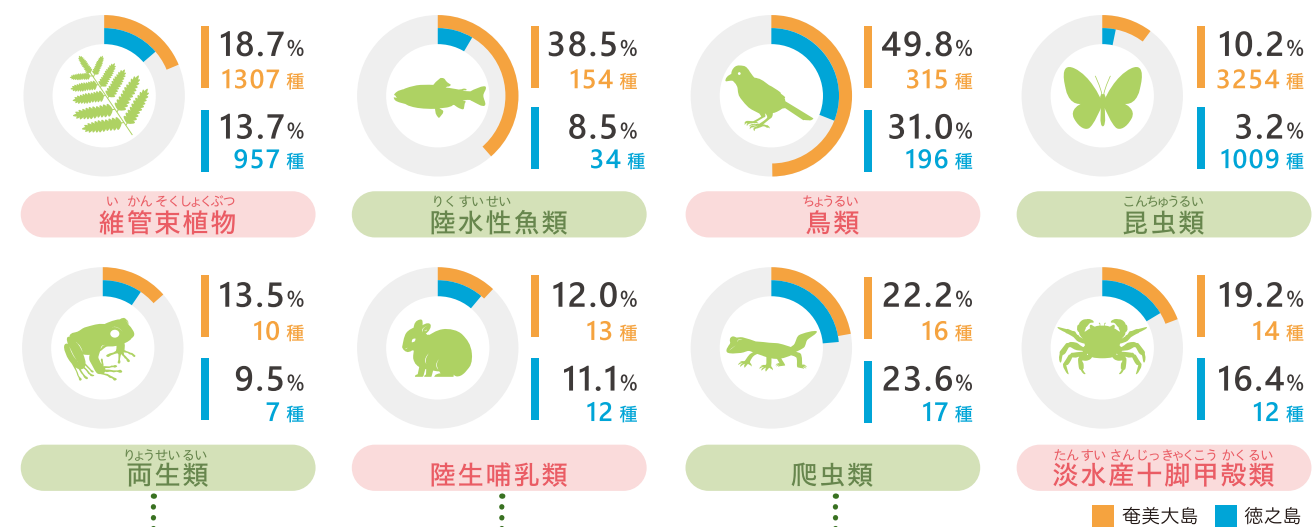
しかし、世界でもここでしか見られない珍しい生き物を含む、いろいろな動植物が生息・生育しています。

奄美大島と徳之島で見られる両生類の約9割、陸生哺乳類と爬虫類の約6割はここでしか見られません。

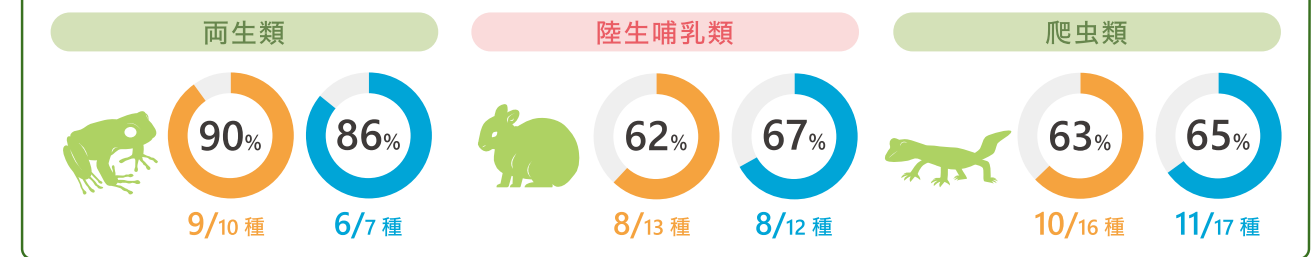


アマミノクロウサギ

奄美大島と徳之島の生き物の数と日本全体の生き物の数に占める割合



奄美大島と徳之島の生き物のうち、そこにしかない生き物の割合



※世界遺産一覧表記載推薦書より

